

ほっこりだより

第59号 2011年12月4日 発行

東向日キリスト教会

京都府向日市森本町下森本6-5

Tel: 075 (931) 5934

http://www.h-mukou-ch.jp/

闇から光へ

「神よ。感謝します!」
何と六十九日振りに、死の暗闇から救い出された男達がいきました。昨年、十月十三日は世界中の人々の喜びとなりました。

チリのコピアポ鉱山で落盤事故が発生しました。地下七百メートルに三十三人の鉱員が閉じ込められたのです。奇跡的に十八日目に生存が確認されたから、救出のため、あらゆる方法が考えられました。時間との戦いでした。

細いパイプが通されて、僅かな食料、水、電源、音楽プレーヤー、そして聖書が送られました。

「イエス・キリストは墓のような洞穴の奥から岩を動かして復活する。」という映画を送り、彼らを励ましたそうです。人間の通れる太さのパイプが昼夜問わずに工事で下に通され、救出されたのです。まさに、闇から光の世界に戻ることができました。見守っていた多くの人々の間に歓喜の音が沸きあがったことでしょう。

また、今年三月十一日に東日本を襲った未曾有の災害は、人々を暗闇に落としました。死者一五、八三六六、不明者三、六五二二人(十一月十一日現在)という大災害の中で、今も復興の光を願っています。

私達の人生においても、目の前が真っ暗になるような闇に落とされる経験をされることがあるのではないのでしょうか。

予期しない病、失業、借金、家族との別れ、挫折など様々です。

和歌山の白浜に高い三段壁があります。そこでのこの電話を備え、身を投げる人達を救っている教会があります。皆、闇の中にさまざましているのですが、そこで生きる光を見出すのです。

聖書に「私を滅びの穴から、泥沼から、引き上げてくださった。そして、私の足を巖の上に置き、私の歩みを確かにされた。」
詩篇四十二の一

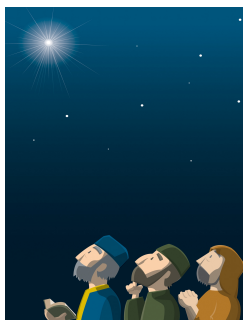
と書いている人がいます。恐らく同じような闇の中におかれたのでしょうか。しかし、神は闇から引き上げて下さいます。それは、神が光であるからです。

十二月はクリスマスを迎えます。それは世の光として誕生されたイエス・キリストを祝う時です。キリストは言われます、

「わたしは光として世に来ました。わたしを信じる者が、誰も闇の中にとどまることのないためです。」

ヨハネ十二の四十六

もし、暗黒の中に置かれたなら、イエス・キリストを見上げてみませんか。光を見出し、そこから立ち上がることができるのです。一緒に光の中を歩みましょう。



俳句

ベランダに固き翅落つ八月月
惜しみなく我身に降りし落ち葉かな
水映る木陰の森に水すまし 古都葉

短歌

山すそのもみじが映える日吉ダム
田園がのどかに続く里の道 Y子

詩

そびえたる扉の前に立ちたれば
縁より洩れる光眩しき
泣く吾子を胸に抱けば胎内の
マグマの振動伝わり来る古都葉

秋の日差しをあびて
木々は色づき
山は紅葉の衣をまとい
水は谷間をくぐり
川となつて田畑をうるおし
喜びを与えてくれる
私達も神の恵みに感謝して
主を賛美しよう Y子

教会案内図です



結婚四十年目のラブレター

あなたに出会えたことを感謝しています。以前、私は何にも出来ないし、家庭的なことを望んでもいなかったので、結婚なんてしてくれる人はいないと考えていました。けれど、あなたと出会って父か兄のような心休まる人と思うようになり、押しかけ女房のよう「一緒にになりましたね。あなたの家族にも優しく接してもらい、家庭のぬくもりを感じて甘えてきました。

でも、元来、心の弱い私ですから、良き妻、良き母になれなかったように思い、反省しています。

また、昨年、私が病気で入院した時、迷惑を掛け、助けられたことを感謝しています。今度はあなたが病気になっても何も力になることをして上げられなかったことを後悔しています。

しかし、二人が今まで守られ、生かされてきたことを神様に感謝しています。今からでも、初めの頃の思いに戻りたいと思っています。これまでの私を何もかも受入れてくれたこと嬉しいです。これからは少しでも一緒になって良かったと思ってもらえるように努力します。今度の手術がうまくいって元気になり、これからも互いに支えあって行く人生にしたいです。

「二人は一人よりもまわっている。二人が労苦すれば、良い報いがあるからだ。」

伝道者の書四の九

これからますますしくお願ひします。元氣になり、

退院のお祝いができる日を楽しみにしています。皆でお祈りしています。

(追伸です)

いつもバス停で見送る時、涙が出て辛いけれど、一緒にバス停まで歩くのも嬉しいです。照れくさいけれど、見送らせて下さいね。子供達もあなたの帰るのを待っています。夫々、親思いの大人に成長したことはあなたのお陰です。ありがとうございます。

Y子

『このラブレターは、Y子さんのいつも元気なご主人が思いもかけない病気となり、大きな手術を迎える時、Y子さんがご主人にそっと手渡したものです。今更、口に出すことに照れもあり、手紙で今の思いを伝えたそうです。そんな素敵な話を聞いて、その内容を書かせていただきました。如何でしょうか・・・』記者

より良く生きるために

日本は世界の長寿国です。平均寿命は男性七十九歳、女性八十六歳です。しかし、いくら長生きしても死を恐れます。また、死という言葉はタブーです。

ですから日本では「四」を非常に嫌います。死とつながるように考えてしまうからです。しかしながら、全ての人がこの時を迎えることになるのですが良く考えたり、話し合うこととしていくでしょうか。また、その備えは出来ているでしょうか。

イベントのご案内

- 12月10日(土) 午後6時半
「京都クリスマスフェスティバル」於京都教育文化センター。
- 12月25日(日) クリスマス礼拝
10時半。午後、楽しい祝会。
- 1月8日(日) 午後0時より
楽しいもちつき大会。
入場無料です。ご参加ください。

著名な大学のある教授は「死生学」や「死の哲学」を学生に教えています。裏を返すなら、人はどのよう「より良く生きるべきかを学ぶ学問です。

この教授は、老年期(第三の人生)を迎える時、生前に次の備えをすることを提唱しています。

- 一. 手放す心、執着心からの解放を持つ。
- 二. ゆるしと和解の時を持つ。
- 三. 感謝を表明する。
- 四. さよならを告げる。
- 五. 遺言書を作成しておく。
- 六. 自分なりと葬儀方法を伝えておく。

聖書には、神と共に歩む者には、天に住まいが備えられていると書かれており、平安があります。しかし、いつ死が訪れるかわかりません。常に備えをしつつ、日々を大切に過ごしたいものです。